

ガールスカウト日本連盟
ジェンダーに関する調査報告



ガールスカウトは 一人ひとりの可能性を伸ばし、 自分自身と人のために考え、行動します。

ガールスカウトは、国籍・人種・宗教の違いを超え、153の国と地域で約1,120万人の会員が活動する世界最大の少女と女性のための団体です。

日本には47都道府県全てに活動の拠点があり、5歳から100歳を超える女性が活動しています。

2025年、日本でガールスカウト運動がはじまって105周年を迎えました。



わたしが変わる。
未来が変わる。



ジェンダーに関する意識調査

調査概要

調査対象：全国の中学生・高校生年代（12歳～18歳）
調査期間：2024年9月27日～11月24日
調査方法：インターネット回答 全52問（選択40問、記述12問）
回答数：1,348人
内訳）中学生751人 女子522人
高校生597人 女子498人



中学生・高校生のジェンダーに関する意識調査2024

**中学生・高校生を取り巻く環境が
与える影響とは**



2019年より続く継続した調査

ガールスカウト日本連盟は、
2019年より継続した調査を実施しています。

この年代の声を把握し、
日常生活で無意識に感じるジェンダーバイアスの存在
について日本の現状を知り、
中学生・高校生たちの声を広く社会に伝えることを
ねらいとしています。

ここで得られたデータや分析結果を教育に生かし、
よりよい社会の実現を目指した活動に取り組みながら、
社会に発信していきます。



2024の調査から見たこと

日常生活にある

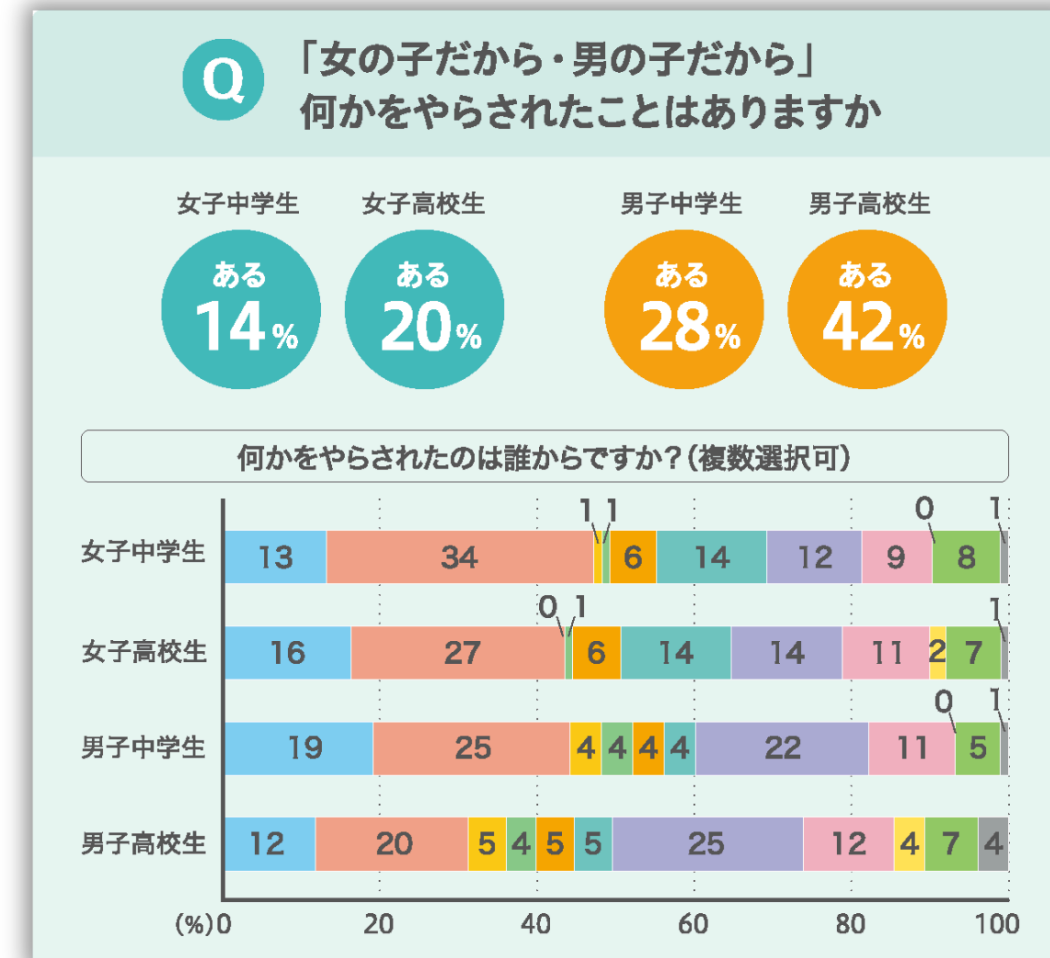
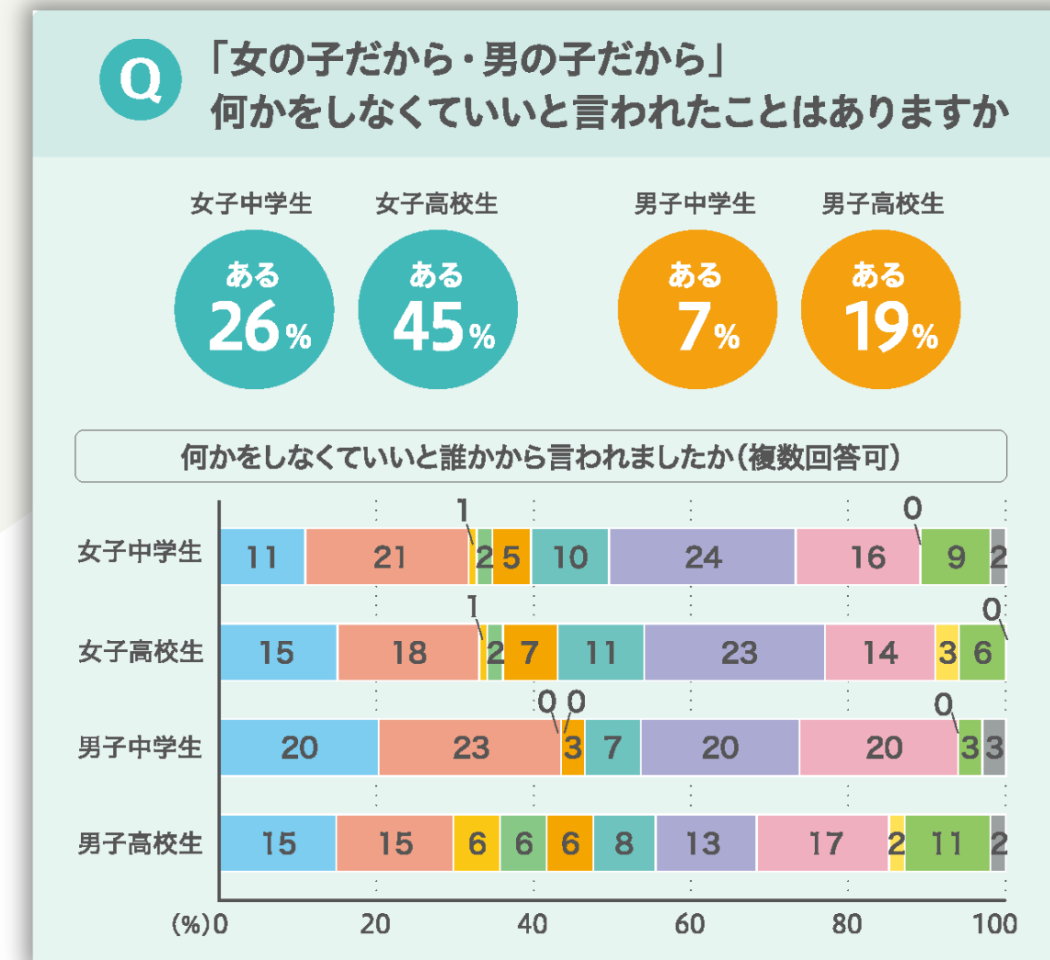
隠れたカリキュラム

中学生・高校生が感じていることの中には、家庭・学校などの日常生活に隠れたカリキュラムがあり、その影響を受けているのではないかと検証。

何気ない言葉かけや態度が、中学生・高校生の可能性を阻むほどの影響を与えていることがわかりました。

隠れたカリキュラムとは

「家庭科の授業を女子だけ、技術の授業を男子だけが受ける」といったわかりやすいジェンダー別のカリキュラムとは異なり、性別役割意識を無意識に再生産するようなものをいいます。



- 父
- 母
- 姉妹
- 兄弟
- 祖父
- 祖母
- 先生
- 友達・先輩
- アルバイト先の先輩・上司
- 上記以外の大人
- その他

開催しました！

大阪・関西万博

ウーマンズパビリオン「WA」スペース

2025.9.13

ジェンダー平等を目指すトークイベント
「わたしの気持ち、みんなの気持ち」

ジェンダー調査報告の様子

2019年から続く調査の最新結果と
いままでの調査結果と比べた変化を紹介しました



参加者の声

知らないうちに性別のフィルターを通して人や作業内容を見ている部分があったと改めて思いました。

より良い生きやすい社会になるように私も気をつけて相手がどう思うか、考えながら話さないといけないなと思いました。

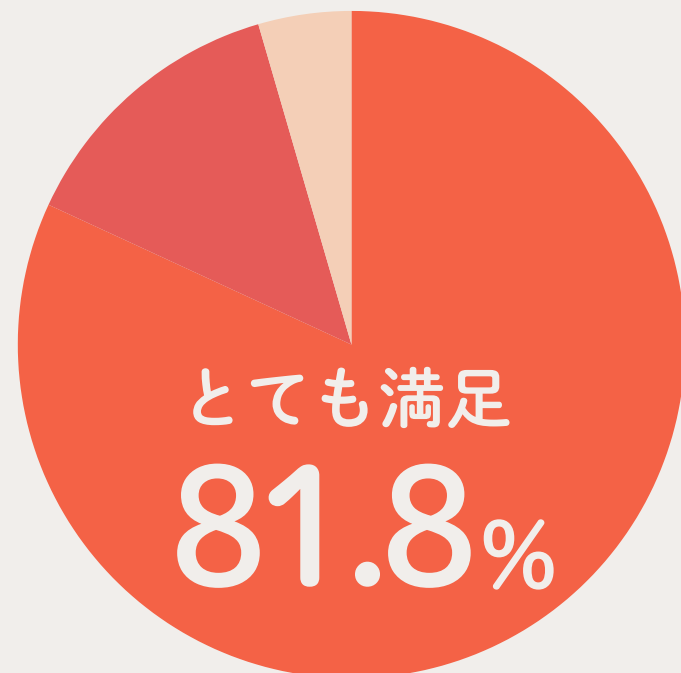
もっと言葉に気をつけるべきだと思いました。
固定観念があり過ぎる。
平等は大切な事です。

自分は大丈夫と思わず、アンコンシャスバイアスを意識する。

立場によって、発言、行動が変わってくるので、いろいろな角度から考えることを意識したい

見落としている日常のステレオタイプのことや、自身でも気づいていない発言があるかも。
意識して行動していきたい。

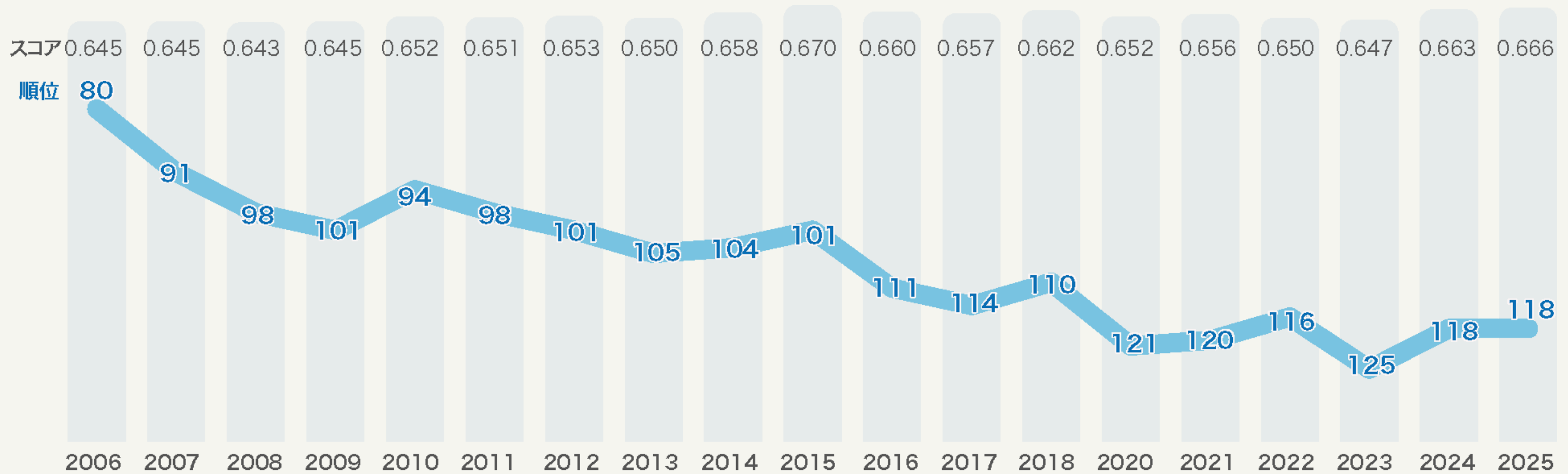
イベント参加者満足度





ジェンダーギャップ指数

日本のスコアと順位





わたしたちの思い

みんなが自分らしくいられる、
そんな社会をつくりたい！


問題だと感じているものの、
変化の兆しがない現状を変えていきたい。

「もっとちゃんと教えてほしい」

「社会の普通を変えたい」

「私たちも変わる」

これからの未来を担う中学生・高校生が
社会に対して願っていることを実現するために、
変化をおこす運動を広げていきたい。



ガールスカウトが 広く発信できる場がほしい

ガールスカウト日本連盟
サポーター企業

14社

いままでもガールスカウトは、
社会をよくする行動を自ら考え、行動を起こしてきました。
社会的課題だからこそ、
ガールスカウトだけでなく多くの方とつながり、
実践していきたい。

多くの企業とつながって、持続可能な世界となるための
問題を一緒に解決していきたい。